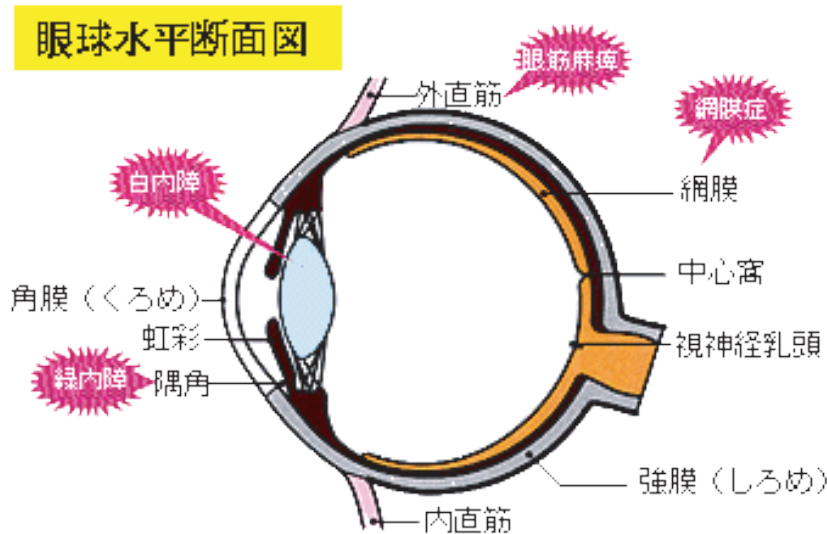


糖尿病性網膜症について

病気に関連する予防医学と豆知識

糖尿病。皆さん誰もが聞いた事のある病気のひとつです。そして近年増加の著しい病気でもあります。国内の患者数は 2002 年の統計では、1,620 万人いるとされています。特に合併症が怖い病気であり「3大合併症」は糖尿病性網膜症、腎障害、神経障害です。そして、糖尿病性網膜症は眼の病気の中で失明率が最も多い病気です。まず眼の構造から見て頂きますが下図の網膜の細かい血管が障害を受けることにより、循環不全が起きたり。血管壁がもろくなったりひどくなると血管が詰まって血液が全く流れなくなります。網膜症は進行の程度で大きく3段階に分類できます。



1. 単純性網膜症：網膜の小出血、毛細血管瘤（血管の瘤）、網膜へのタンパク質や、脂肪の沈着
2. 前増殖性網膜症：網膜の細小血管の拡張・閉鎖・走行異常、網膜の浮腫
3. 増殖性網膜症：新生血管の発生（本来は存在しない脆弱な血管ができてしまい、それが破綻することで出血が起きてきて次の病気へとつながっていく）、硝子体出血、網膜剥離

治療方法は①の段階では血糖のコントロールが主体です。②の段階では網膜の血液の循環を良くするお薬を飲んだり、更に進行すればレーザー光を照射する手術（外来にて）を行うこともあります。③の段階ではレーザー治療だけのコントロールは難しく、入院して硝子体出血したものを取り除く手術、網膜はく離を治療する手術が必要となります。そして怖いことに前増殖性網膜症でも自覚症状に乏しいということです。つまり、自覚症状が出たときはかなり進行しているということです。そして、網膜症の治療は白内障のように悪いものを取り除けばよく見えるようになるということではなく、一度痛んでしまった網膜は再生することではなく現状維持の治療が主体となります。ですから、早くに発見して、早く治療を始める、自覚症状がなくとも定期的に検査を受ける事が大事になります。